

(報道関係各位)

1ヶ月先の消費を占う「消費意欲指数」は、  
毎月25日前後に発表いたします。

2002. 1. 23  
博報堂 広報室 寺島・宮川

12月末に調査した、1月の「消費意欲指数」の結果がまとまりました。  
2002年1月・今年最初の消費意欲は、  
残念ながら、調査開始以来、1月としては過去最低の  
53.0点でした。

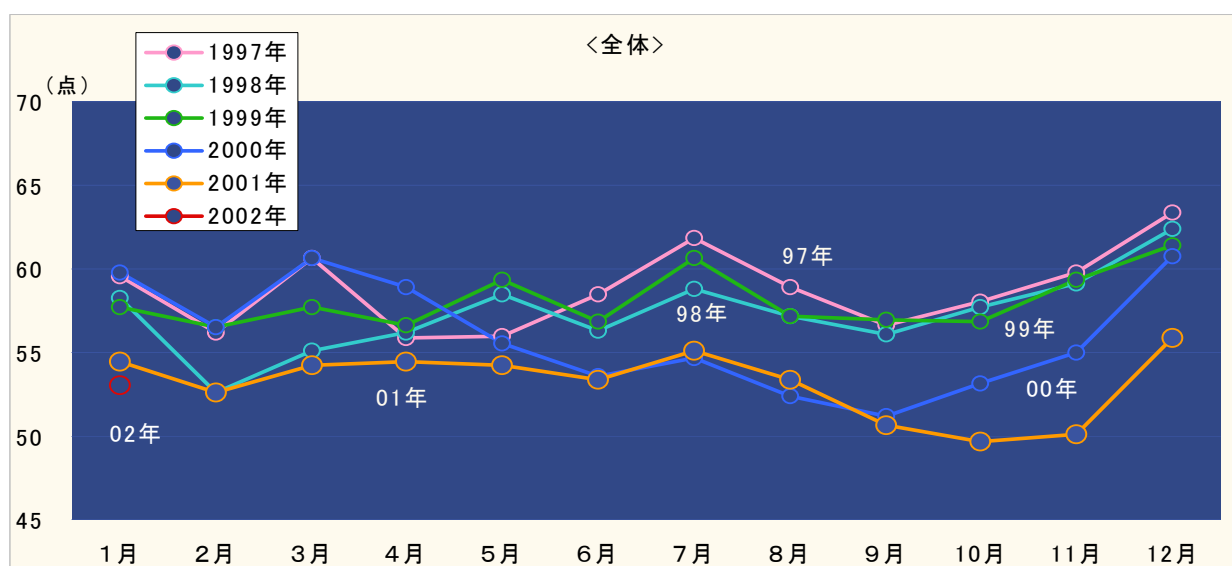
■「消費意欲指数」は、月別の消費の先行指標として、1993年より注目されているデータです。

12月末時点で、博報堂生活総合研究所の調査パネルである一般生活者440名に対し「消費意欲（モノを買いたい、サービスを利用したいという欲求）が最高に高まった状態を100点とするとあなたの1月の消費意欲は何点ぐらいでしょうか？」と質問した結果が「1月の消費意欲指数」です。

この消費意欲指数は、月別の消費を占う先行指標として、1993年4月の調査開始以来、幅広く活用して頂いています。

■2002年1月、今年最初の消費意欲指数は、53.0で、残念ながら1月としては調査開始以来、最低の点数でした。

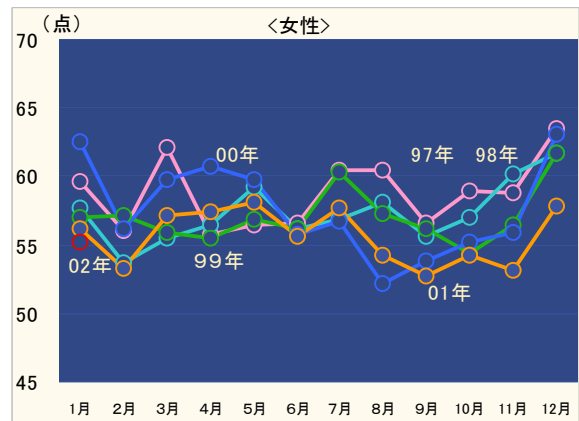
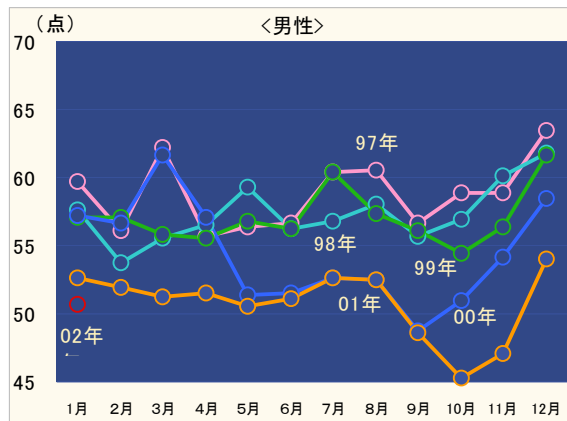
(消費意欲指数)



例年1月は、ボーナスや年末年始のレジャーが終わって、季節変動的に指数が低下しますので、先月(55.9)から低下したことは問題ないとしても、数値自体があまりにも低いことが気になります。

来月は、1年でも最も消費が沈静化する2月。この低いペースのまま2月を向かえるのは、たいへんに心配といわざるをえません。昨年も2月に低下が始まり、そのままなし崩し的に「最悪の1年」になってしまいました。

■消費意欲の落ち込みが顕著な男性。いっぽう、女性の消費意欲は、落ち込むといえども僅差にとどまる。



男女別に見てみると、やはり男性の落ち込みが顕著（先月54.0→今月50.7）です。

金融危機の噂など、男性は完全に「心理不況」症候群に陥っているようです。

いっぽう女性のほうは微減（先月57.8→今月55.3）に留まっており、今年も「女性が頼り」という構図に変化はなさそうです。

女性だけで見れば、昨年1月（56.2）と比べても僅差であり、不況に負けない元気さがうかがえます。

オリンピック、ワールドカップ、新しい小売業態の台頭、新技術の製品化など、明るいニュースも決して皆無ではありません。今年こそは、日本が新しい一歩を踏み出す元年になってほしいものと、切に希望したいところです。

※博報堂生活総合研究所のHP ([www.athill.com](http://www.athill.com)) では、「消費意欲指数」も含め、生活者に関する調査データにご自由にアクセスすることが可能となっております。是非一度ご覧ください。

【調査概要:HILL ネット調査】

調査地域: 首都圏 / 調査対象者: 18~76才の男女個人 440人 / 調査方法: 郵送法

本件に関する詳細のお問い合わせは  
博報堂生活総合研究所 (03-3233-6450) までお願いいたします。

